

令和 8 年度（2026 年度） 第 1 回熊本地域公共交通活性化協議会 議事録

I 日時等

1. 日 時：令和 8 年（2026 年）5 月 25 日（月）
午後 2 時 00 分～午後 3 時 30 分
2. 場 所：KKR ホテル熊本 五峯

II 主な内容

1. 開会

2. 会長挨拶

- ・今年度、協議会の大きなミッションは熊本地域公共交通計画の次期計画の策定である。
- ・昨年度、関連計画である熊本県地域公共交通計画、熊本都市圏都市交通マスタープランの改定が行われている。これらの計画では、「公共交通 2 倍」という高い目標が掲げられ、今後の大きな方向性が示されたところである。
- ・この目標の実現に向けて、いかに具体的で納得感のある施策を盛り込めるかということが、熊本地域公共交通計画に求められていると考えている。
- ・都市圏の渋滞解消への貢献という意味でも、公共交通への期待は高まっている。
- ・一方、公共交通を取り巻く状況は引き続き厳しいものであり、難易度の高い計画策定となるため、委員の皆様の知恵をいただきながら、より良い計画策定を目指したいと思う。
- ・また、計画策定に向けた議論と並行して、3 つの専門部会において、昨年度からの取組を踏まえた更なる公共交通の利便性向上に向けた協議も行ってまいりたい。
- ・皆様におかれては、それぞれの立場から積極的にご発言いただくとともに、本協議会の円滑な運営にご協力をお願い申し上げます。

3. 議事

(1) 令和 7 年度の事業報告及び収支決算案について

(事務局)

- ・資料 1 を用いて説明

(会長)

- ・ただいま説明があった令和 7 年度の収支決算案について、監査委員より監査報告をお願いする。

(監査委員)

- ・熊本地域公共交通活性化協議会の令和 7 年度収支決算について、監査委員において関係

帳簿及び証拠書類等を監査しました結果、適正に処理されていたことをご報告申し上げます。

(会長)

- ・令和7年度事業報告及び収支決算案について、何かご質問はないか。
- ・なければ収支決算案のとおり承認とし、次の議事に移る。

(2) 令和8年度の事業計画案及び収支予算案について

(事務局)

- ・資料2を用いて説明

(会長)

- ・令和8年度事業計画案及び収支予算案について、何かご質問はないか。
- ・なければ収支予算案のとおり承認とし、次の議事に移る。

(3) 現行計画の変更について

(事務局)

- ・資料3を用いて説明

(会長)

- ・地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金の申請にあたり、計画の一部変更が必要ということである。
- ・ただいまの説明に関して何かご意見・ご質問はないか。
- ・なければ変更の内容については承認とし、計画変更の手続きは事務局にて進めるものとする。
- ・それでは次の議事に移る。

(4) 次期地域公共交通計画の目指す将来像や基本方針等について

(事務局)

- ・資料4を用いて説明

(会長)

- ・資料4が本日のメインの話題ということなので、しっかりと議論したい。
- ・まず、現計画は熊本市に嘉島町を含めた地域が計画の対象だったところ、次期計画では熊本市のみが計画の対象となると聞いているが、いかがか。
- ・また、この計画の策定主体は熊本市となるのか、この活性化協議会となるのか確認したい。

(事務局)

- ・一点目のご質問について、昨年度の協議会でご説明したとおり、次期計画は本市単独での計画となる。
- ・公共交通は地続きであり、市町村の区分は基本的にはないと認識しているが、それぞれの市町村によって、抱えている課題や、課題に対する方針、施策が様々であるため、次期計画からは本市のみの計画にしたいと考えている。
- ・二点目のご質問について、計画の作成主体は本市であり、自治体としての計画という位置づけであると認識している。ただ、活性化協議会の方でしっかりご議論いただくことについてはこれまでと変わりないと考えている。

(会長)

- ・つまり、次期計画は熊本市地域公共交通計画という名前になるということである。
- ・熊本市としての計画ということで、市議会の皆様方にも特別委員会等も含めて、ご意見をいただきながら進めることになると思う。
- ・他にいかがか。

(副会長)

- ・資料 1 ページに、熊本県地域公共交通計画及び熊本都市圏都市交通マスタープランとの整合を図る、とある。
- ・一方で、熊本県地域公共交通計画にて「公共交通に対する公的資金投入額の増加」という目標が掲げられているのに対し、資料 2 ページの現行計画の振り返りには、「利用者一人当たりの公共交通への公的資金投入額の目標値が令和 2 年度基準値以下」という目標設定は、作成主体の意気込みに欠ける印象を抱かせるものであった、との記載がある。
- ・次期計画において、この目標値はどちらに向かうのが良いのか、また、熊本県地域公共交通計画の「公共交通に対する公的資金投入額の増加」という目標との整合性をどのように図っていくのかお尋ねしたい。

(事務局)

- ・県においては、公共交通に対する公的資金投入額を増加させ、行政が積極的に関与する方向に舵を切っていると認識している。
- ・本市においても、特別委員会での議論の中で、公共交通は利用者の減少、交通事業者の経営悪化、サービス水準の低下、といういわゆる負のスパイラルに陥っている現状があり、これを正のスパイラルに転換するにはどうするかという公共交通のあり方について、適正に公的資金を投入していくとともに、公共交通のサービス水準の維持のため、行政として積極的に関与していく方向を示したところであり、県との方向性は基本的に合致して

いるものと認識している。

- ・現計画における「利用者一人当たりの公共交通への公的資金投入額の目標値が令和 2 年度基準値以下」という目標設定について、計画策定当時の、独立採算の趣旨のもと民間企業が公共交通を担うという背景が色濃く出ているものと認識している。
- ・次期計画において、公共交通を支えるために行政としてどう関わっていくか、議論が必要であると考えている。

(会長)

- ・他の市町村でも、公的資金投入額を増加する方向への転換があっているため、今後、熊本市ではどうあるべきか、委員の皆様方と議論できればと思う。
- ・4 ページ目の「目指す公共交通の将来像」について、「誰もが安心して移動できる持続可能な公共交通」というのは、正しい将来像であるが、熊本都市圏ならではの将来像をもう少し踏み込んで書けないか。
- ・例えば、「渋滞を減らすために公共交通の利用者を増やす」という視点は大切。将来像に文言として入れるかは検討が必要だが、車から公共交通に転換できるくらい公共交通の利便性を高めるということが、熊本市の計画として重要なことの1つではないかと思う。
- ・現在の将来像は、日本全国どの市町村でも当てはまるものである。誰もが安全で安心して移動できる公共交通は必要であるが、熊本市特有の課題である渋滞を減らすためには、車を運転できる方であっても公共交通を使ってもらえる程に公共交通の利便性を高めるということが重要である。
- ・熊本市特有の課題を将来像に謳うか、もしくはそれを忘れないように考えるという姿勢がまず重要ではないかと思う。
- ・事務局や他の委員の皆様方からも意見を頂戴して議論していきたいと思うが、まず事務局の考えをお聞かせいただきたい。

(事務局)

- ・ご指摘をいただいた部分について、おっしゃる通りであると受け止めている。
- ・将来像を謳うからには、どの市町村でも当てはまるものではなく、本市において公共交通が果たすべき役割と、役割を果たすことで実現する将来像を市民の方々にもイメージをしていただけるようなものが良いように思う。
- ・委員の方々と議論を重ね、より適切な表現で将来像に盛り込んでいけたらと思う。

(会長)

- ・他にいかがか。

(委員)

- ・議会としても、公共交通基本条例というのを制定しており、使わなければ公共交通は無くなっていくということを再認識してもらうため、あえて市民の責務というのを条例の中に書いている。
- ・この機会に、目指すべき公共交通の将来像のベースとして、条例で謳われている市民の責務を改めて市民の方々に再認識していただきたい。便利だからと安易にマイカーを使うのではなく、なるべく公共交通を使っていかないと、あるのが当たり前と思っていた公共交通が、ある日突然なくなる可能性もあるということを、この機会に周知することが必要だと思う。
- ・補足のようになるが、市民の責務を含めて、メディアの方々とともに情報発信をしていただきたいと思う。

(会長)

- ・今のご意見について、事務局から何かあるか。

(事務局)

- ・公共交通基本条例については、常に根底にあるものと認識をしているものの、おっしゃる通り市民の方にご案内する機会というのはあまりなかったと思っている。
- ・次期計画の策定をするにあたり、改めて公共交通基本条例を見つめ直すという観点でやっていけたらと思う。

(会長)

- ・車の分担率を減らし、公共交通の分担率を高めるためには、公共交通分担率をモニタリングすることが重要である。
- ・公共交通分担率を市民アンケートで把握するのもいいが、アンケートに依存せずに分担率を測れる仕組みがあるといいと思っている。
- ・一つのアイデアを申し上げる。街中に流入する車の台数について、おそらくトラフィックカウンターなどで自動的に計測可能ではないかと思う。一方で、公共交通で街中に入ってくる人数も測れると思う。両者を使えば、街中に入ってくる移動の分担率がだまかに計算できるのではと思う。
- ・そのような移動の分担率を毎年計算することで、計画の進捗をすぐ確認できるようにする仕組みがあるといいと思っている。
- ・今までも、共同経営推進室を始めとした事業者の協力により、公共交通利用者数はきちんと把握できているが、自動車の利用者数が減少しているかというのは必ずしも十分に把握できていなかったように思う。そのあたりを工夫するのが重要ではないかと思う。
- ・熊本市全体で公共交通分担率を高めることも重要だが、やはり混んでいる場所、混んでい

る時間帯の車の分担率を下げるという意識が重要である。

- ・大学としてもサポートできる場所があると思うので、引き続き知恵を出し合っていければと思っている。
- ・もう一点、資料5ページ目の3層のネットワーク構成の中で、一番下の地域内公共交通ネットワークにシェアサイクルが入るのかという議論がしたい。
- ・誰でも使える手段ではないかもしれないが、使える方はどんどん使っており、シェアサイクルでバス停や電停まで行くというように、公共交通にも非常に関連の深いものである。
- ・自転車活用推進計画と熊本市地域公共交通計画の整合性や連携のあり方について、コメントをいただきたい。

(事務局)

- ・現計画においては、自転車は公共交通として捉えていないというのが現状である。自転車には別途自転車活用推進計画がある。
- ・令和6年度からチャリチャリというシェアサイクルを本格導入し、少しずつ市民の生活に定着してきたと思っている。
- ・自宅から最寄りのバス停まで、または最寄りのバス停から最終目的地までといった、ファーストワンマイル、ラストワンマイルを担う公共的な乗り物に成長してきたのではないかと感じているところ。
- ・ご指摘のように、資料5ページに記載の3層のネットワーク構成の中で、地域内公共交通ネットワークとして上記2つではカバーできない地域における有効なツールになってきたのではないかと考えている。
- ・今回の計画改定において、本協議会で議論をさせていただきたい。

(会長)

- ・ぜひ色々と検討いただきたい。
- ・次期計画において、ターゲットごとに使える交通手段も違うというのも整理しなければならないと思っている。
- ・例えば、高齢者にシェアサイクルを使ってもらおうというのはイメージしづらい。また、自転車は雨の日では使いにくい。一方で、観光客に使ってもらおうという方法もある。
- ・ターゲットごとに公共交通の役割も変わってくるというのも、計画に盛り込んでいければ、計画の実効性も高まってくると思うので、ぜひよろしく願いしたい。
- ・他にいかがか。
- ・なければ次の議事に移る。

(5) 今年度の専門部会での協議内容について

(事務局)

- ・資料5を用いて説明

(会長)

- ・ただいまの説明に関して何かご意見・ご質問はないか。

(委員)

- ・全く別の観点になるが、交通というのは人流と物流がある。ここで議論しているのは人流をメインにしているが、互いに影響し合うところである。
- ・つまり、物流についてもある程度視野を持って進めていく必要があり、ある程度調査しておく必要があると思う。
- ・特に、最近東部方面で物流が増えており、それは直接的に人流へ影響している。
- ・また、西環状道路が一部開通したことで人流が良くなったように、改善する例もある。
- ・世界的に、人が多く住んでいる地域には貨物を通さない、通したとしても人が動く時間帯には、物流関係の運輸は遠慮してもらおう、というのも見受けられる。
- ・その辺りの調整をすることで、物流と人流がお互いスムーズになるのではないかと、というようなことも、視野に入れておく必要があるのではないかと。

(会長)

- ・貴重なご意見である。
- ・公共交通と直接関係がないところもあるかもしれないが、熊本都市圏都市交通マスタープランの実行計画となるアクションプランにおいては考えておくべき視点であり、ご指摘いただいた空間や時間に応じた分離という視点もあろうかと思う。アクションプランも担当している事務局としてはいかがか。

(事務局)

- ・活性化協議会は公共交通のあるべき姿等について議論し、熊本市地域公共交通計画はそのための計画であると認識している。
- ・一方で、物流が人流に与える影響もあるのではないかとという視点については、委員のご指摘のとおりである。
- ・道路行政については、まちづくりの観点から熊本都市圏都市交通マスタープランにも謳っており、実行計画であるアクションプランとして考えていくものと認識しているが、その視点も持って熊本市公共交通計画に繋げていければと思っている。

(会長)

- ・ TSMC の関係で、物流の対策も重要となっているところなので、ぜひよろしくお願いたい。
- ・ 他にいかがか。

(委員)

- ・ 基幹公共交通機能強化部会の「J R 豊肥本線の需要増への対応」について、踏切の改善を付け加えていただきたい。
- ・ J R 豊肥本線の踏切について、朝夕の通勤、通学の時間を含め、一日中渋滞しているような状況で、その踏切の渋滞により、バスの定時性、速達性が阻害されている。光の森方面からのバスにおいては、ほぼ定刻に到着しないのが現状である。

(事務局)

- ・ J R 豊肥本線は公共交通機関として非常に重要なものと認識しており、今後も新水前寺駅、南熊本駅の結節機能強化を図っていく考えである。
- ・ 一方で、機能強化に伴い踏切渋滞が悪化するという課題についてはご指摘のとおりであるため、その課題認識を持った上で、今後の施策に繋げていきたい。

(委員)

- ・ 踏切の渋滞がバスに与える影響は大きく、定時性、速達性が非常に阻害されていると感じているので、是非改善をお願いしたい。

(会長)

- ・ J R 豊肥本線の機能強化とは、幅の広い表現となるが、大切な内容である。具体的には複線化や立体交差化等、夢のあることを考えたいところでもあるが、一方で簡単に実施できることではないことも承知している。
- ・ 熊本市と J R 九州の間で包括連携協定を締結したこともあり、是非 J R 豊肥本線を生かした公共交通軸を検討いただきたい。
- ・ その話題に関連して、資料 5 - 1 の基幹公共交通軸の図をアップデートする時期だと考える。前地域公共交通計画、あるいはそれ以前の公共交通グランドデザインの頃から使用されており、大きな方向性としては間違っていないが、鉄軌道の位置付けが曖昧になっている。計画の策定に合わせ、J R 豊肥本線の強化も盛り込んだ、新しい基幹公共交通軸の図を作り直す時期ではないか。
- ・ バス路線についても、途中から廃止された路線もあるので、鉄軌道とバスの役割分担が分かりやすい基幹公共交通軸の図を描くことは、計画として重要だと考える。
- ・ 他にいかがか。

(委員)

- ・資料5-1の「ボトルネック解消」の項目に記載されている、道路交通の円滑化および公共交通機関の定時性、速達性を高めるというところに関連してお尋ねする。
- ・熊本城から水前寺方向へ行く際に、大甲橋を渡った最初の信号で、右折が可能となっている。その右折待ち車両により渋滞が発生し、右折待ち車両を避けるために車線変更した車両が、さらに路線バスの運行に影響を及ぼしている。
- ・これまでも交通管理者である熊本県警と、道路管理者である熊本市で連携を図っていると思うが、長年改善されていない。
- ・具体的な例でお話をしたが、道路の拡張となると現実的に難しい箇所もあるが、白山交差点で朝の9時までは右折ができないように、時限的な対処も渋滞対策として必要ではないか。
- ・また、右折をするということは市電を横断するということであるので、右折をしないことで事故の発生も抑制できるのではないか。
- ・右折可能な箇所について全体的に見直しを図るということも、路線バスの定時性、速達性を高めることになるかと思うが、取組の必要性について事務局の見解をお聞きしたい。

(事務局)

- ・ご指摘の事例について、右折レーンの車両が直進レーンまで並び、バス交通を始めとした様々な交通に影響を与えている、いわゆるボトルネック交差点についてのお尋ねかと思う。
- ・ボトルネック交差点については、ご指摘のとおり路線バスへの影響が大きいものであるため、基幹公共交通軸の機能強化の視点からも、今年度はより具体的に調査、検討を進め、公共交通の定時性、速達性を高めていきたいと考えているところである。

(会長)

- ・大甲橋のボトルネック解消に向けた話というのは、本協議会で初めて公開された情報ということによろしいか。是非メディアの方にも取り上げていただきたい。
- ・大甲橋のバスレーンについては非常にもったいない状況であるものの、歩道の部分まで道路を広げればいいのかというと、そう簡単なことではない。
- ・ただ、大甲橋のボトルネック解消に向けて熊本市が検討を進めているということについて、協議会としても後押しをしたいと思う。
- ・先程ご指摘があったとおり、熊本県警の協力等も重要であるので、連携して進めていただければと思う。
- ・他にいかがか。

(副会長)

- ・今年度の各専門部会については、現計画の実施と、次期計画の改定という両面があると考えている。
- ・例えば、基幹公共交通機能強化部会の場合は、各交通軸に求められるサービス水準の検討を行うとしており、これをもとに次期計画を考えていく指標ができるのだろうと考えている。
- ・一方、コミュニティ交通部会では、今年度の取組に公共ライドシェアの社会実験の実施が挙がっているが、公共ライドシェアについては、次期計画の階層ネットワークの中には含まれていない。
- ・公共ライドシェアは現計画で終了なのか、それとも次期計画に盛り込む前提で進めていくのか、そういうところで、今年度は特にこれまでと次の繋がりが大事になってくると思う。
- ・今年度の部会は、親会では議論できない細かい部分まで議論するということから、分科会的な意味合いも兼ねてくるのかと思うが、部会運営についてどうお考えなのかお聞きしたい。

(事務局)

- ・今年度の協議会の進め方について、親会については、年間通じて 5 回程度を予定しており、次期計画を策定するにあたっての進捗をお諮りしていきたいと思っている。
- ・一方で、具体的な取組内容についての議論は、各部会の中でお示ししながら進捗を報告していくことになると考えている。
- ・ご指摘のあった公共ライドシェアについて、コミュニティ交通のサービス水準を議論いただく中で、サービスの一つとして、公共ライドシェアについても検討が必要であると考えており、このような具体的な検討を部会の中で議論いただくという認識である。

(事務局)

- ・今年度実施する公共ライドシェアの社会実験について補足する。
- ・将来の運転士不足が懸念される中、公共交通の持続的な運行が課題となっており、また超高齢化社会の到来により、今後、移動困難者が増加するのではないかと考えているところ。
- ・法改正により、全国的に公共ライドシェアを導入する自治体が増えている。熊本県内でまだ実施事例はないが、熊本市としてはそういう課題を踏まえて、今年度の社会実験に取り組んでいく。
- ・公共ライドシェアの課題である安全面や、地域の共助と行政との役割分担、運行支援のあり方を慎重に協議しながら、タクシー事業者の協力のもと、安心して安全に移動ができる仕組みについて検討していきたいと考えている。

(会長)

- ・公共ライドシェアを次期計画に盛り込むかという質問に対する明確な回答が無かったと思われるが、事務局の見解はいかがか。

(事務局)

- ・社会実験を通じて検討していくことになると思うが、有効なサービスの一つであるという認識について変わりはないので、公共交通として必要であるという判断になれば、次期計画の中に盛り込むことも想定している。

(会長)

- ・利用促進部会の資料に記載されている取組についても同じことが言えるが、単発の社会実験を繰り返すのではなく、社会実験の結果を積み上げて、より良い結果に導くという意識を強く持っていただきたい。
- ・一つの大きな目標に向けて、各社会実験がどんな役割を持ち、何を検証し、結果を通して何を見ていくのかということを意識することが重要だと思う。
- ・また、参加人数の多い親会では各委員が自由に議論いただくのは難しいところもあると思うので、各部会が分科会的な役割を持ち、さらに細かい点を議論しながら進める方法も組み合わせたいと思ったところである。
- ・他にいかがか。

(委員)

- ・熊本県地域公共交通計画や熊本都市圏都市交通マスタープランにおいて、「公共交通2倍」という大変心強い目標を掲げて取り組もうとされている。
- ・ただ現実的には、昨年度のバスの走行キロは減少している。主に運転士不足を原因として、6月に土日の減便を予定しているバス会社もあり、実態としては非常に厳しい状況である。
- ・その中でも、どうにか増便ないし新規路線を作ることができないかということで、昨年共同経営推進室では、産交バス八反田線での快速便創設の実験や、山鹿と熊本都市圏を結ぶ路線についての増便シミュレーション等を行ったところ。しかし、交通事業者だけで実施するのはもう限界がある。
- ・こういう取組を部会等で実施しながら、次期計画を作っていくことが必要ではないかと思うが、事務局の考えをお聞きしたい。

(事務局)

- ・まず、共同経営推進室を始めとした民間企業の方々が率先して取組や検討を行い、行政では行き届かないところを担っていただいている点について、大変感謝を申し上げる。
- ・市としても、サービス向上のための社会実験を行政だけで行うのは限界があると考えてお

- り、社会実験については交通事業者の皆様方の協力があるこそだと思っている。
- ・民間で限界があるところを行政と一緒に取り組みたいというご提案を大変ありがたく思っており、ご相談をさせていただきながら進めていけたらと思っている。
 - ・また、その中で得られた結果を次期計画に反映していけるよう注力していきたいと考えている。

(会長)

- ・本協議会については、親会に限らず部会も全て公開という、他市町村ではあまり行っていない仕組みになっているが、非公開のワーキング等、より機動的な方法もあるかと思うので、事務局や事業者の皆様とも協議の上、やりやすい方法を検討いただければと思う。
- ・最終的に、公開の場で方針を確認することは当然必要であるが、その途中の議論まで全て公開でやるとなかなかうまくいかないところもあるかと思うので、最終的に議論が一番進むような方法を検討いただければと思う。
- ・他にいかがか。
- ・なければ、以上で本日の議事は全て終了とする。